

## 編集後記

- 平成 24 年度の定期総会は若狭会長の旧知の岡山蓮昌寺庫裏で開催しました。岡山市内一番の喧騒地田町でありながら、境内は静かです。  
基調講演は矢吹壽年（元岡山市教育委員会勤務）会員にお願いしました。400 字原稿用紙で約 45 枚にのぼる、長年の研究成果を発表されました。本号では 2 回に分けて掲載します。力作です熟読下さい。
- 今回は広島の前田忠興氏と濱手英之氏に初めての投稿を戴きました。濱手氏は今年から取り組むホームページを担当していただきます。
- 昨年の当会の探訪会は岡山笠岡の沖に浮かぶ高島にて行いました。当地の会員である藪田・河田氏は高齢にもかかわらず、古代史に対する熱意が深く藪田氏からは何度かお便りを戴きました。編集委員の皆さんも感動され、是非本稿に掲載をとの声上がり、掲載させていただきました。  
“きび考” 3 号に「古代土器製塩」として寄稿いただいた広島の松浦宣秀会員が、古代製塩で「村おこし」をなさっている様子が NHK で放映され、元気な姿を拝見しました。益々の活躍を念じています。延原勝志副会長は備前市文化財保護委員に就任されました。活躍を期待しています。
- 当会の H/P を公開しました。本年度の主要な活動方針の一つですが、丸谷副会長を中心に運用を計って参ります。濱手会員の好意に感謝し、会員の皆様からの投稿・寄稿を歓迎いたします。35 ページに掲載していますので早速開いてみてください。ご意見・提案は事務局宛にお願いします。この“きび考”も毎号全て載せています。写真はカラーですから迫力があります。お楽しみに。
- “きび考”の執筆者は学者などの発表なざる「論文」ではありません。論旨が諸先生の既に発表なさっていることに類似する場合もあるでしょう。学会などで定説化されている場合等を含めて、各々の執筆者の言葉で表現するように心がけています。同じ字句を引用する場合には出典を明示することにしています。必ずしも「先史」にこだわりません。紀行文・エッセイ等会員の皆様の寄稿をお待ちしています。

編者

### “きび”考 第 6 号 2012(平成 24)年 7 月 31 日発行

発 行 日本先史古代研究会  
会長 若狭哲六 706-0022 岡山県備前市東片上 771  
事務局 702-8002 岡山県岡山市中区桑野 504-1 山崎泰二方  
電話=086-276-6654 FAX=086-276-2241  
メール=senshi@bosaisystem.co.jp(事務局専用)  
編集委員 井上秀男 延原勝志 樋口俊介 本松一郎 丸谷憲二  
濱手英之 山崎泰二(事務局長兼編集委員長)